

『もりおかの短歌』冬の部

〈一般部門〉優秀賞十首

鴨たちの

かも
かいわ しろ いき

会話も白い息だねと

なかつがわぞ つうがく あさ

中津川沿い通学の朝

秋田県大仙市 鈴木 仁

寒い朝

さむ あさ
せいりゆうすい しみずく

青龍水の清水汲み

ちゃ せん いのちうるお

お茶を煎じて命潤す

盛岡市 西川 政勝

生きづらく

い まさ やさ

あれども勝る優しさと

しんせつ ふ よ いちにち

親切に触れ良い一日に

愛知県丹羽郡 清水 将一

りようせん

稜線の

み

いわてさん

くつきり見ゆる岩手山

うるは

すがたほこ

その麗しき姿誇りぬ

青森県青森市 鈴木 操

こうしつ

さむ

にあ

硬質の寒さの似合ふ

もりおか

い

みちすべ

盛岡に凍て道滑るも

こ

はしやぎて子らは

盛岡市 工藤 由美子

やさ

げ

もよう

は

優し気な模様は映えて

しょくにん

じふ

ただよ

職人の自負が漂う

なんぶてつびん

南部鉄瓶

盛岡市 河野 康夫

めいすい

名水の

ふゆあたた

わ

みず

冬温かく湧く水を

わかみず

しんねんいわ

若水として新年祝う

盛岡市 堀米 公子

ひめかみ とんが やまふゆく
姫神の尖りお山冬来れば

しろ
白いピラミッド

そび
聳えるごとし

盛岡市 小林 貴史

とし
年あけて

むねたかな はっこてん
胸高鳴りぬ初個展

とも きちよう
旧友かけつけて記帳するなり

盛岡市 赤坂 昌信

ゆきいだ
雪抱き

たか いわてさん
ひとときわ高し岩手山

たび わたし みまも こと
旅ゆく私を見守る如く

栃木県佐野市 小林 トシ子

冬の部へジュニア部門へ優秀賞

該当なし

【講評】

一般部門

盛岡の冬を上手く捉え、詠まれた歌が多かったと思います。冬は雪を素材に詠うことも多いのですが、よく見れば歌の素材は様々あります。視点は個性となって現れます。自分にしか見えないところを見つめることが大切です。

令和二年三月選 冬の部

投稿数 八十一首

選者 赤澤 篤司